



クルマが人との出会いを作り 人の縁がクルマを引き寄せる

「合縁奇縁（あいえんきえん）」という四字熟語があるが、今回登場する安本さんとグレイスカブ・戸田社長の絆は、まさにその通り。イベントのブースというどこにでもある出会いが、無二の親友へと繋がっていく。

■ THANKS : GraceCab Tel 0568-35-7790 <http://gracecab.jp>
■ OWNER : 安本浩之 ■ PHOTO : 浅井岳男 ■ TEXT : 空野稜



安本さんがとくに気に入っているのが、65年型の特徴であるストレートウインドウ。ちなみに内外装はフルオリジナルで、シャンパンゴールドの塗装は当時のまま。「モデルイヤー、コンディション、ボディカラーとすべてが揃った個体に出会えたのは奇跡ですが、このクルマに巡り会えたのは戸田さんのお陰です」と安本さんは語る。



デビルに乗れたのは人との出会いがあったから!

若い時に欲しいクルマがあっても、簡単には手に入れないもの。その後、経済的に余裕ができたとしても、好きな個体に出会えず諦める...というのが現実だろう。だがそんな夢の話を叶えたのが、デビルに乗る安本さんだ。免許を取得したらスグにクルマを購入するため、高校生の時からバイトを開始。裕福な友人はインパラなどを購入するが、それを横目で見ながら左ハンドルのアコードセダンを購入する。

だがここで諦めないのが安本さんのスゴいところ。その後も仕事に励み、20歳にして2000年以降のドゥビルを新車で購入する! このクルマは結婚を機に手放すが、この時に戸田さんと巡り合う。以来、四半世紀近くこの付き合いが続いており、安本さんは「かけがえのない友」だと断言する。

そんな気心知れた関係になったある日、戸田さんは安本さんが長年欲しかった65年型デビルの極上車がアメリカにあるという情報を入手! 早速2人で渡米し無事購入を果たすが、安本さんは「自分だけの力では絶対に手に入れられなかったです!、しかもアメリカに行くと買い付けるといって、貴重な体験をさせてくれた戸田さんには感謝しかありません」と今でも楽しそうに振り返る。

次に欲しいクルマはまったく思い浮かばないそうだが、60歳や70歳になっても戸田さんと一緒にアメ車トークができる関係性をこれからも続けたいと語ってくれた。

良好なコンディションをキープしてくれた前オーナーへの感謝を込めて、インテリアはオリジナルの雰囲気をキープ。オーディオはレトロサウンドを使用して純正オーディオ位置にセットアップ。60'sの雰囲気がそのまま伝わってくるようだ。



1965 Cadillac De Ville 2door Convertible

US CUSTOM TREND
アメリカンカスタム最前線

トランクルームにはエアサスユニットを設置。リアフェンダー内にタイヤが隠れるほどの低さを実現しているが、いつでもノーマルに戻せるというコンセプトで戸田さんにカスタムをオーダー。もちろん戸田さんも快諾したのは言うまでもない。



タイヤ&ホイールは20インチに変更。また前後ブレーキやマスターシリンダーはウィルウッドに変更して安全性を向上させており、現代のクルマとまったく変わらないフィーリングでドライブできると安本さんは語る。

